

7月16日(水曜日) 第1回宇部市コミュニティ・スクール推進協議会
社会教育課



本協議会は、市内のどの地域においても、地域ぐるみで子どもの育ちや学びを支援する質の高い教育支援体制を整備するために、コミュニティ・スクールに関する宇部市教育委員会の施策の充実や各学校及び地域等の取組の改善に向けた協議を行うとともに、各コミュニティ・スクールの取組を支援することによって中学校区での連携した取組を推進し、内容の充実を一層促進することを目的として開催されます。委員には、中学校区の学校運営協議会の代表者（12名）と、小・中学校長の代表者（4名）で組織されています。

第1回は、「学校運営協議会の取組の現状と課題」と、「コミュニティ・スクール周知のためのチラシ(案)の加除修正」を中心に協議しました。

「学校運営協議会の取組の現状と課題」では、「熟議で子どもが考え、主体的に活動している」「体育館で地域行事のプレゼンをした」「小学校区の規模が違うため、中学校区単位での活動が難しい」「地域連携と教員の働き方改革の両立が課題」「社教推との連携が課題」等多くの意見が出されました。

「チラシ(案)」についても、委員の視線ならではの建設的な意見が出されました。

本協議会委員一同は、子どもたちのよりよい育ちと学びを育むために、学校と地域が連携・協働する『コミュニティ・スクール運営』が、市内全域で一層充実することを願い、今後も協議を続けていきます。

7月7日(月曜日) 地域の方と一緒に「ごみ出し音頭」
神原小学校



神原小学校では、昼休みの時間を使って、神原夏祭りで踊る「ごみ出し音頭」を地域の神原民謡舞踏会の方々と一緒に練習しました。この「ごみ出し音頭」は、正しいごみの分別や処理を啓発するために、昨年の夏祭りから復活したものです。今年の夏祭りでも、たくさんの子供たちに踊ってほしいという地域の方々の願いから、この事前練習が開催されました。体育館には、有志の児童約60名が集まり、楽しそうに10名の地域の皆さんから踊りを教わっていました。

5月27日に開催した第1回宇部市地域学校協働活動推進員連絡会議で行われたグループ内の情報共有の際、あるグループでは「上宇部音頭を運動会で踊っている」「西岐波音頭は都はるみが歌っている」「ごみ出し音頭を夏祭りで踊っている」という話題で盛り上がり、ぜひ子どもたちにも伝承していきたいという意見になりました。

今回神原地区では、地域の環境衛生連合会神原支部会長が学校へ事前練習のお願いに来られ、指導ができる地域の方々を募り、段取りを整えて実現に至りました。

ぜひ夏祭り当日も多くの子供たちが保護者を誘って踊りに参加し、地域を盛り上げてほしいと願っています。

なお、神原小学校は、環境衛生改善模範地区団体最優秀賞に選ばれ、8月18日（月）に開催される宇部市環境衛生大会において表彰されます。

6月27日(金曜日) 第1回宇部市地域連携教育担当者連絡協議会
社会教育課



山口県教育庁地域連携教育推進課と宇部市の地域連携教育担当者との連絡協議会が市役所庁舎で行われました。昨年度まで戦略会議と呼ばれていましたが、市町の地域連携教育の取組を県が伴走支援する形に改められました。

当日は、県から2名、宇部市からは学校教育課、市民活動課、宇部市校長会、社会教育課から13名、そして、アドバイザーとしてCSチーフ（県内6地区に配置された統括的なCS活動推進員）をお招きし、宇部市の重点取組事項の柱の1である「地域学校協働活動の推進」についてグループワークで熟議を行いました。

「地域貢献意識の向上」については、地域の多様な活動と学校が求めているもののマッチングが重要であることや、児童生徒の地域への愛着・愛情を育むには学校地域連携カリキュラムや大人の学び、総合的な学習の時間での探究的な学びを通して地域と関わり、行動につなげることが重要であることを確認しました。

また、「学校づくりと地域づくりの理解浸透」については、保護者世代の関わりや地域学校協働活動推進員の働きに注目し、子ども主体の活動を仕組むことが必要であることを確認しました。

令和6年度の国の調査では、宇部市の約8割の児童生徒が、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えています。これが、「何かできる」さらには、「行動する」に変容し、地域の担い手として育ってくれるように、地域連携教育推進課とCSチーフからいただいた助言をもとに、これからも宇部市の地域連携教育を推進していきます。

6月11日(水曜日) 第1回厚東川中学校区合同学校運営協議会開催！
厚東川中学校



これまで夏季休業中(8月)に実施されていた厚東川中学校区合同学校運営協議会が、3地区の学校運営協議会委員と教職員、児童生徒がともに地域をよりよくしていくための話合いの場として組織化され、6月(今回)と2月を合わせて年3回実施されることとなりました。

6月の第1回は、中学校区全体での取組について、厚東川中校長から、「学校と地域をしなやかにつなぐ取組」のための『地区児童生徒会（仮称）』の活動の趣旨・内容、体制等に関して説明が行われました。

その後、各地区代表の中学生25名が参加し、「令和7年度厚東川中学校で取り組むアイデアを地域と学校と生徒のみんなで創出しよう」をテーマに、1グループ6～8名の全12グループに分かれて、熟議が行われました。「お年寄りの話し相手をするなどのサポートができる」とよい」「地域のお米や農作物、小野の和紙で作ったお守りを祭り等で販売する」「地域行事に参加してもらうために、無料バスを出す」「地域全体で防災学習を行い、一緒に非常食を食べたり地震装置車での地震体験をしたりといった普段できない経験をする」といった様々な意見が出ました。

会長からは、「出た意見の中でまずできることから始め、持続可能な活動にしていけるとよい。学校・地域の協働活動を通して、地域の担い手を育てていきたい。そのためにも学運協の取組を実のあるものにしていきたいと思う」と挨拶があり、有意義な会であったことを皆で確認しました。

熟議を通して、中学生が地域のことをよく知っていることや、地域をよくしたいと思っていることが委員の皆さんにも伝わり、生徒にとっても様々な立場からの発言を聞くよい学習の場になったことでしょう。

6月11日(水曜日) 神原地区夏祭りボランティアの事前準備始まる！
神原中学校



神原中学生に「神原地区夏祭りのゲームコーナーを企画から運営まで任せたい」という依頼が、神原地区コミュニティ推進協議会からありました。これまで「お手伝い」といったサポートをするためのボランティアはありましたが、企画・運営ボランティアは数年ぶりの取組です。募集をかけたところ、31名の生徒ボランティアが集まり、自分たちでやりたいことを決めながら、現在準備を進めています。

昼休みには、会長さんからボランティアを依頼することになったいきさつや地域の願いを語っていただきました。「夏祭りを盛り上げる、ではなく君たち自身が楽しんでください」との熱い思いを受け、中学生もますますやる気をもらったようです。夏祭りには、神原中吹奏楽部も出場します。

夏祭りの裏方として、また主役としても、中学生が活躍します。自分たちに期待を寄せてくれる地域の方の思いを聞くことで、中学生の心にさらに熱い灯がともったことでしょう。

6月10日(火曜日) 青色のビブスを着てボランティア活動！
厚南中学校



厚南中学校では、今年度からボランティア活動時に青色のビブスを着用することにしました。初お披露目は、厚南地区と西宇部地区に分かれて行われた小・中学生と保護者による朝のあいさつ運動でした。一体感を醸し出すのに一役かっていたようです。

厚南中学校には、「お役にたち隊」という有志によるボランティア活動チームがあり、校内での朝のあいさつ運動の他、掃除や製本作業、花壇整備等、随時募集をかけて参加可能な生徒が集まって活動しています。これら校内での活動の他に、地域からの声かけに応える形で、スタンプラリーやむべの里のバザー等に参加している生徒もいます。参加した生徒たちの笑顔は、周囲の人たちを温かい気持ちにさせ、誰かの役に立っている喜びを感じていることも伝わってきます。

これからも、校内や地域で青色のビブスを着た生徒たちが、周囲の人たちをさらに温かく、元気にしてくれることでしょう。

6月10日(水曜日) 「チャレンジ船木塾」で地域の方が活躍中！
船木小学校



船木小学校では、今年度も家庭で取り組んだ「やまぐちっ子学習プリント」の答え合わせややり直しの確認などを地域の方に見ていただく「チャレンジ船木塾」を開塾しました。週末に出された全校児童分の学習プリントを、毎週月曜日に来校された地域の方が、丸付けをされます。そして、火曜日の昼休みに、やり直しや分からない問題を地域の方に教えていただいています。

その延長で、6月からは、3年生の算数で習う時計の学習に支援に入ってくださいました。児童にとって、時計の学習はなかなか手ごわいようで、“地域の先生”に教えていただいたり、時計の模型を動かしたりしながら一生懸命に取り組んでいました。これらの授業支援は、2年生や4年生など他の学年にも広がっています。

当初は、宿題の丸付けをすることで教員の負担軽減を図る側面がありましたが、“地域の先生”が、昼休みや授業で児童と関わることでとグレードアップされ、児童にとっても教員にとっても学びの充実へとつながる取組となっています。

6月10日(水曜日) 学校運営協議会委員の参加でパワーアップ！
上宇部小学校



上宇部小学校では、フォローアップ（新規採用1～3年目の若手教員が対象）の学校訪問と学校・地域連携カリキュラムのカリマネミーティング（校内研修）に、学校運営協議会委員の方々にも多数参加していただきました。それにより、教員以外の視点から授業やカリキュラムについて意見交換が図られ、委員と教員との交流も生まれ、思いも共有されます。

学校訪問での授業参観後、委員の方々による意見交換が自然発生的に始まり、「子どもの目が輝いていた」「〇〇先生の〇〇がよかった」と、学校の様子の理解を一層深めておられました。

カリマネミーティングでは、委員の方々が「先生の熱心さや前向きな気持ち、まとめる力に感心した」と言われました。さらに、この日の夜には、ふれあいセンターで地域の方が自主的に集まり、学校との連携の具体的な活動について意見交換もされたそうです。

学校と地域が協働する関わりをもつことで、つながりが生まれ、自主的なその次の行動へとつながっていく理想的な流れとして、大変参考になる事例です。

6月4日(水曜日) 総合的な学習の時間で『東中プロジェクト』！
東岐波中学校



東岐波中学校では、総合的な学習の時間を活用して、1年生の「自己理解・地域に学ぶ」と2年生の「自己啓発・社会とかかわる」という学習を踏まえて、3年生では「自己実現・未来をみつめる」として、魅力ある未来の東岐波を考える『東中プロジェクト』に取り組んでいます。

1年生は、5月22日に丸尾三神社、花園小学校跡、孝女佐々木ゆかの墓地など地域の約10か所の史跡や景勝地を訪れました。

2年生は、5月23日に日の山ウォークをし、日の山山頂から東岐波の風景を写生し、句をそえました。また、地域の職業・産業を調べ、自分の将来を考えるキャリア教育にも取り組みます。

3年生は、6月4日(水)の1時間目に1回目の本格的な学習として、5つのプロジェクト（観光、伝統、産業、人・福祉、災害・防犯）に分かれ、班作りや今後の計画を立てました。中でも、産業と人・福祉のプロジェクトでは、東岐波小学校1年生や地域ボランティアの方々と、学校前の農園にサツマイモの苗を植えました。秋の豊作を願い、これから水やりや草引きなどをプロジェクトメンバーで行います。

1・2年生での学びの積み重ねが3年生の5つのプロジェクトとなって、生徒が主体的に活動に取り組み、そうして考えられた「魅力ある未来の東岐波づくり」が今からとても楽しみです。今回の取組結果は、文化祭で詳しく報告されるとのこと。ぜひ、すばらしい発表になることを期待しています。

5月27日(火曜日) 第1回宇部市地域学校協働活動推進員連絡会議
社会教育課



県主催の地域連携教育に関する研修会が統合・整理されたことや、宇部市社会教育委員会による提言書『「これからの宇部市の社会教育と私たちの地域づくり」について（令和7年2月）』が提出されたことなどを受けて、社会教育課では、今年度新たな会議を開催することとしました。その一つが、「第1回宇部市地域学校協働活動推進員連絡会議」です。この会議は、地域学校協働活動推進員を対象としたものですが、当日は推進員の推薦を担う、ふれあいセンター館長6名も参加しました。

会議ではまず、本課の社会教育主事による所管説明で推進員の役割を確認しました。推進員は「地域と学校をつなぐコーディネーター」の役割を担い、学校・地域の課題解決に必要な連絡調整や地域・学校の教育活動の企画や支援、その他関係団体等との連携調整といった活動を行います。また、県・市が進める「大人の学び」について、実施に向けた共有を図りました。推進員は、単なる支援者、サポーター、ボランティアではなく、子どもたちの学びを支える学校のパートナーであることを再確認し、各自が認識を深めていきました。

会議の後半は、グループに分かれ、「①各校における地域学校協働活動の現状について」、「②児童生徒の意見を生かした地域学校協働活動の推進について」というテーマで情報交換を行いました。

事後のアンケートには、「情報交換はとても刺激的で勉強になりました。参考にしたい」「もっと子どもたちと関わって思いを聞いていきたい」といった積極的な声がたくさんありました。本会議が、学校と地域との協働活動の一層の充実に向けて、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の一体的な推進を図るきっかけとなるよう願っています。

5月18日(日曜日) 藤山地区運動会、鵜の島地区体育祭で「地域元気応援隊」が
今年も活躍！
藤山中学校



藤山中学校では、5年目となった「ヤング自治会」と「地域元気応援隊」が、今年も地域で活躍しています。今年度の「元気地域応援隊」には、1年生53人、2年生53人、3年生36人の140人以上が所属しています。5月18日（日曜日）に開催された藤山地区運動会と鵜の島地区体育祭には、おなじみの紫色のビブスを着用して、たくさんの生徒が参加しました。運営の手伝いを行ったり、楽しく競技に出場したりするなど、運営を支え、地域を大いに盛り上げました。

生徒の活躍ぶりは、「藤山だより6月号」と「鵜の島だより6月号」にも写真入りで広く地域住民に紹介されています。行事の参加だけではなく、藤山地区の自治会連合会総会とコミュニティ運営協議会定期総会、鵜の島地区のコミュニティ推進協議会総会に生徒が参加して、学校と地域との連携事業の説明や活動報告を発表しています。その中で、「地域の方々との交流が深まるとともに身近な地域の再発見につながった」「地域のお祭りに参加して伝統や歴史に触れることができた」と、生徒たちは地域貢献活動を通して学んだことをしっかりと地域の参加者に伝えていました。

藤山中学校の地域貢献活動は、藤山地区と鵜の島地区に着実に浸透しており、これからも地域の理解と支援を受けて一層の充実が図られることでしょう。

5月19日(月曜日) 習字の先生が、3年生の習字で授業支援
上宇部小学校



上宇部小学校では、宇部市や山陽小野田市等で習字の先生をされている11名の方が、3年生の国語の習字の時間に指導してくださる習字の授業支援がありました。

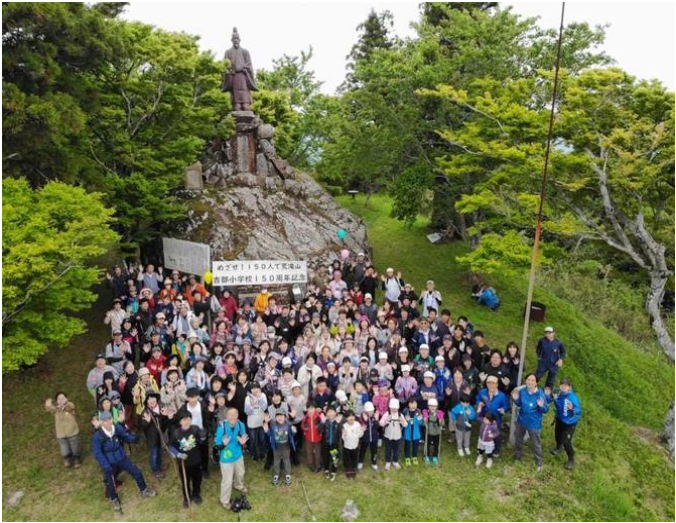
先生方は授業前のミーティングで授業中に気を付ける点や、今日の授業のやるべきこと等をしっかり確認されていました。

今回、専門家から指導していただいたことにより、子どもや教員にとって、より充実した学びになりました。

また、授業後も、ミーティングで教え方を振り返り、今後に生かそうとされる姿勢は、大人の学びの姿でもあります。

人と人との偶然のつながりが起点となって、実現した授業ですが、今回支援をしてくださった方々は、社会教育活動としてご自身のスキルを活用したり、磨きをかけたりしておられます。子どもが、担任ではない先生と学ぶことは、子どもたちに多くの大人が関わることになり、より多様な視点で子どもをサポートすることができます。様々な価値観をもった大人との関わりを実現することで、多様性を重視される現代社会を生き抜く力を育む一助となるはずです。

5月11日(日曜日) 開校150周年記念「めざせ150人、荒滝山登山」
吉部小学校



吉部小学校では、開校150周年記念イベントの「めざせ150人、荒滝山登山」が実施されました。当日は、天候にも恵まれ、目標の150人を大きく上回り約170人で宇部市最高峰の荒滝山に登りました。児童や保護者、吉部地区住民の他、宇部市内・外から多くの方が参加され、山頂ではぜんざいが振舞われたり、吉部米が当たる抽選会が行われたりと、大盛り上がり的一天となりました。

旧吉部小から犬ヶ迫登山口駐車場まで移動するシャトルバスの中では、5・6年児童がガイドとなって、吉部の大岩郷やホタル祭り、竿まんじゅう、ゆうれい寿司など吉部地区の名所・特産品等の紹介を行いました。

登山を終えた児童からは、「たくさんの方が吉部小学校を応援してくれていると思いました。大人になってもこの景色を覚えていたいです」といった嬉しい感想が聞かれました。

今回の登山は、子どもたちにとって心に故郷の風景を残し、吉部地区を誇りに思う思い出づくりの一つとして貴重な経験になったことでしょう。

5月11日(日曜日) 川上地区環衛連主催の「春の雑草撲滅運動」に参加
川上中学校



川上地区では、宇部市環境衛生連合会川上支部の主催による「春の雑草撲滅運動」が川上ふれあいセンター周辺で実施されました。地域の有志の方々が集まって、川上小・中学校の通学路をきれいにしようと、歩道を中心に除草作業が行われました。

この除草作業に中学校の生徒11名がボランティアとして参加しました。2時間の作業でしたが、多くの人の協力により、通学路が大変きれいになりました。

毎日使う通学路がきれいになることで、小学生も中学生も気持ちよく通ることができます。自分の通学路ではないものの、除草作業に参加した生徒もいました。誰かのためになりたいという思いながら作業する中学生には、「地域をよくするために何ができるか」を考える地域貢献意識が確実に育まれています。

5月9日(金曜日) 地域学習に向けた1年生の学年集会
西岐波中学校



西岐波中学校では、総合的な学習の時間を活用して、1年生の生徒たちが地域学習に向けた学年集会を行っています。1回目は、常盤公園までの4kmを歩き、彫刻の丘でスケッチをする校外学習の目的を共有しました。2回目は、校外学習の実行委員を中心に、スローガン「心頭滅却 心をひとつに～見えない世界のその先に～」の発表や、グループに分かれての目標の設定、ルール作り等を行いました。生徒主体の活動を通して、実りの多い体験的な校外学習をめざしています。

同校では、校外学習を単なるイベント的な活動にすることなく、生徒が目的を共有し、実行委員による生徒主体の事前学習を実施することで、自分事として考え行動する姿勢が育まれています。

校外学習後には、活動を振り返り、達成感とともに新たな課題も見い出し、さらなる探究的な学びにつながることを期待しています。

5月2日(金曜日) お気に入りの野菜を植えよう！
二俣瀬小学校



二俣瀬小学校では、地域の野菜作り名人さん6人を招いて、1・2年生の児童が、生活科「お気に入りの野菜を植えよう」に取り組みました。地域の名人さんに教えてもらったとおりに、丁寧に苗を植えて、水をたっぷりあげました。各児童が一人一鉢で育てたい夏野菜は、ミニトマト・ピーマン・オクラです。また、畑やプランターには、キュウリ・なすび・ミニトマト・ピーマン・トウモロコシ・チシャ等を植えました。

児童が育てた野菜は、「二俣瀬ふれあい市場」に出荷することを予定しています。地域のみなさんに買ってもらえるような立派な野菜を育てることが、1・2年生の目標です。

誰かに買って食べてもらうという大きな目標をもって取り組むことで、児童の自主性・主体性も育まれることでしょう。もし困ったことが出てきても、地域の野菜作り名人を頼りに、一つ一つ解決しながら楽しく取り組んでほしいと思います。

4月25日(金曜日) 『郷土愛を育む』学校・地域連携カレンダー！
常盤小学校



学校・地域連携カレンダー

常盤小学校では、昨年の9月からメール配信システムを活用したサポーター制度の運用を始めました。サポーターとして来校していただいた方は、延べ200名以上となっています。こうした取組の継続・発展を願い、子どもたちとサポーターの方々が共に学びを楽しむ「常盤小タイム」の様子が一枚でわかる「学校・地域連携カレンダー」が作成されました。常盤小学校が、保護者や地域の皆様と、いつ、どのように連携・協働活動をするのかがまとめられています。このカレンダーにより、保護者や地域の方々が日常的に来校しやすくなり、頑張っている子どもたちの姿を褒めていただく機会も増えることでしょう。常盤小学校の学校教育目標である『ふるさとを愛し、ふるさとから愛される「ときわっ子」の育成』をめざして、学校と地域が連携する取組が視覚化され、意識化することのできる素晴らしい取組です。

4月16日(水曜日) 学校運営協議会に向けて小学校教員部会での話し合いを実施！
東岐波小学校



東岐波小学校では、4月30日に実施される東岐波中学校区合同学校運営協議会に全教員が参加します。それに備えて、コミュニティ・スクールについて教員が共通理解することを目的に話し合いを行いました。教頭が宇部市のコミュニティ・スクールリーフレットを使って市の取組を紹介した後、東岐波小学校でのコミュニティ・スクールの取組について説明しました。さらに、地域連携教育担当教員からも、東岐波小学校コミュニティ・スクールの昨年度の成果と課題や本年度の取組、当日の熟議について具体的な説明が行われました。その後、それぞれの部会別に話し合い、昨年度までの取組を振り返り、今年度の取組のアイデアを出し合いました。宇部市教育委員会では、熟議を行う際、児童生徒に事前学習や事前準備をして熟議に臨むことを推奨しています。それは、大人も同じで、主体的に自分事として考えていくことがとても重要です。大人の意識が深まることで、児童の取組にも一層深まりが見られることと期待しています。